



栄光園だより
第101号

2015年10月31日発行
発行
社会福祉法人 栄光園
別府市南荘園町3組
〒874-0904 電話 (23) 2827
振込口座 01930-2-20748

編集 広報誌編集委員会
印刷 大野印刷株式会社
別府市青山1-7 電話 (21) 0505

子どもの貧困について考える

児童養護施設 江口 敏一

子どもの6人に一人が貧困で、これは先進20か国の中で4番目の貧しさだと問題化され、2年ほど前「子どもの貧困対策法」が制定されました。この法律に従って、昨年、「子どもの貧困対策に関する大綱」が閣議決定され、本年度はその実現に向けて各地方自治体で計画が具体化されつつあります。

子どもの貧困が世界的に低い位置づけであることが明確になって、初めて問題視されるこの国の対応のほどかしさを又しても味わうこととなったのです。

世界は経済原理で動いていると認識している政治家にとって、T P Pを含め

貿易を主眼にした国の経済成長を促すためには高額所得者を優遇すべきであるとの確信がある限り、低所得者の落差の拡大を政治で防ぐことは大変困難です。低所得者を救済する政治的に有効な意味合いを見出すことが難しいからです。

子どもは生まれてから成長する過程で、その生活環境から人生観も含め、すべてを模倣・学習するわけですから、ある面では親の貧困生活を模倣すると子どもも貧困にならざるを得ません。すなわち、子どもだけが貧困なのではなく、そのベースに家庭の貧困があるので。貧困の連鎖は世代間のみならず

親族間にも広がっている場合があるとさえ言われております。

家庭の貧困には家庭形成や雇用形態の変化などさまざまな要因が考えられます。結婚した人の3分の1が離婚しており、家庭の崩壊による母子家庭・ひとり親家庭の問題があります。ひとり親家庭の子どもの6割近くが貧困である現実を目を向けなければなりません。日本では女性の所得は低く雇用も不安定であり、複数の職場を掛け持ちで働き、子育てに向ける時間がほとんど取れず、心の余裕もなく養育放棄をせざるを得ない状況も生まれております。養育放棄や虐待が周囲の人たちに認知されれば、児童相談所への届け出から施設で子どもが生活する手立ても生まれませんが、社会から孤立して、助けを求めるすべすら知りえない場合もあります。児童福祉のサービス内容や利用方法を誰もが容易に知ることができ、施設利用が積極的になされるような体制が求められています。

栄光園のような乳児院・児童養護施設は、0歳から18歳まで、場合によっては20歳までの子どもたちを養育し、少なくとも子どもの最善の利益を目指す施設ですので生活環境としては貧

困に対するシェルターのような機能を持つています。また、施設での生活は、多職種の職員や里親、学習ボランティアなど子どもたちにとっては別の世界、別の行動様式を持つ人たちに出会い、接することができまますので、それらの機会を糧に、新たな生き方を組み立てられる可能性も秘めています。

一方、現有の制度と併せて、大学や専門学校などの上級学校への進学する道も開かれ、人生の選択肢を広げ、貧困から脱出できる機会がさらに得やすくなる方向へ進んでおります。自分の人生を深く考え、将来を予測できる力が貧困から脱出できる機会につながると考えられるからです。

貧困は、その人が生きてきた結果ではなく、社会問題であること。そして、私たちは、そのような助けを必要としている人の「隣の人」になり得る社会、自分の人生、自分の持てる時間・才能・財力は助けを必要としている他者に対して用いることがごく普通である社会を目指したいと考えております。



うに食べている姿を見てほっとしました。実は、数日前にアンパンマンのお弁当箱を見つけて、「これ、僕のお弁当当?」「今日食べるお弁当?」と何度も尋ねていました。その可愛らしい姿は、皆と同じように作ってあげよう、という職員の見守りになりました。



うに見ていたのが心に残りました。それで、今回はなるべく皆と同じように楽しめるお弁当を考えました。卵焼きやウインナーのペーストをおかゆに挟んでおにぎり風にしたリ、唐揚げやポテトもカラフルなアルミカップに入れて大好きなアンパンマンのお弁当箱に詰めてみました。当日、そのお弁当を満足そうに楽しそ

4月当初はまだ歩くのもままならなかったうさぎ組の子どもたちですが、日に日に歩くのも上手になり、遊びもダイナミックになってきて、今では木馬も自分で揺らせるようになりました。また、お友だちの影響も受け、真似をして遊ぶ姿もでてきて、子ども



できるようになったよ!

乳児院



これからも食事作りを通して、少しでも子どもたちの心が温かく満たされるようにお弁当作りや毎日の調理を頑張っていきたいと思えます。

夕飯後、職員が部屋の掃除をしていると、「ぼくも」とやってきて、掃除機をかけるようにしてくれました。毎日していることを子どもたちが良く見ていて、誰も教えていないのにじょうずに持っていました。日ごろはおもちゃの片づけを手伝ってくれる子どもたちですが、これから日常のことも少しずつお手伝いしてもらおうかな?と思っています。

お手伝いできるよ!



ちのパワーは本当にすごいなと感心させられます。これからどんどんできることが増えるのだらうなととても楽しみです。



今日はどれにしようかな? この頃つかまり立ちが上手になり、自分のタンスに手が届くようになって、ある日職員が洗濯ものを入れているほんのちよつとの隙間に覗き込んでいました。まるで「今日の洋服はどれにしようかな?」と言っているようです。好奇心も出てきて、これからのいろいろな事に興味を持ち始めるんだろうな。



児童養護施設

ユニバーサルスタジオジャパンへの全体旅行を終えて

児童指導員 大野 将也

児童養護施設では、9月4日〜6日の日程で、小学生以上の児童23名、職員11名、総勢34名で大阪のUSJ(ユニバーサルスタジオジャパン)への船旅に行ってきました。

普段の生活では5つのホームに分かれて生活を送っており、ホームを超えた児童間での関わりは希薄になりがちとなっています。そのため、今回の旅行では児童、職員共に一緒に旅行することで、感動や楽しみを共有し、互いに絆を深めることを大きな目的としました。



出発の直前に一名の児童が熱発し、止む無く参加を断念することとなってしまい、一名欠員状態で旅行はスタートしました。しかし、その中でも、自分が楽しければそれで良い、「U君大丈夫なんかな?」「楽しみにしていたのに一緒にいけないで残念やな...」と発熱した児童を心配する声が聞かれたり、USJ内ではその児童へのお土産を職員と一緒に選ぼう姿があつたりと、他者を思いやる気持ちを垣間見ることが出来ました。初めて船に乗りUSJへ行く経験をする児童がほとんどであり、船内の展望デッキに出て世界最長の吊り橋である明石海峡大橋を望むことが出来たり、船の構造に興味を抱いたり、USJ内では人の多さに驚いたり、それぞれ初体験の連続でわくわくする様子が3日間通して伝わってきました。初めての経験に目を光らせて



いる表情や、帰って来てからも「楽しかった!」「またみんなどこかへ行きたい」という声などから、みんなが一つの目的に取り組み、同じ感動を共有することが出来たのではないかと思います。この経験を忘れることなく、今後も機会があれば、全体での大掛かりな行事を計画することが出来たらと思います。

運動会 オゴウホームのお弁当作り

児童指導員 足立 円美

当ホームは今年度から唯一の男女混合ホームとなり、現在小学5年生〜3才までの男女7人の子どもたちが生活



が少し難しいのでいろいろと考えました。3才になってからは、みんなと同じように普通食を食べる様子も見られるようになりました。前回ホーム行事でお弁当を作った時もこの子にはミキサー食とおかゆを用意したのですが、色とりどりのお弁当を少しうらやましそ

しています。食事の時間もいつもにぎやかで、食欲旺盛な元気な子どもたちです。先日、爽やかな秋晴れの日に小学校の運動会が行われました。ホームでも朝から職員が協力してお弁当を作りました。お弁当作りでいつも考えていることは子どもたちの喜ぶ顔です。今回も食材の色やバランス、味付けを考えながら楽しくお弁当作りに取り組みました。そして、当ホームには先天性の病気のために、毛髪や歯が生えにくい体の子どもがいます。現在3才でやんちゃ盛りのも元気な男の子です。好き嫌いもなく何でも楽しそうに食べてくれます。しかし、まだ歯が2〜3本しか生えていないため、しっかり噛むことが難しいのです。ホームで月1回専門の先生の摂食指導を受けながら、ミキサー食を中心とした食事を作っています。この子のお弁当



部屋の中が…!?

「先生、布出して!」「先生、洗濯ばさみ貸して!!」と言いに来る子どもたち。一体、布と洗濯ばさみで何を作るのかと様子を見てみると、椅子やテーブルも使ってなんと家づくりをしています。「○○ちゃん、椅子持ってきて!」「○○くん、ここ洗濯ばさみ止めて!」など友だちと協力しながら遊ぶ姿も見られました。最初は数人で遊んでいたのがいつの間にかどんどん広まり今ではぞう組大ブーム中です!

私たちの足の踏み場がないくらい部屋の中が集合住宅のようです。

子どもたちは自分たちでイメージしながら、友だちと力を合わせて遊びを考えたり工夫しながら遊んでいて、子どもたちがどんどん成長していると改めて感じる事が出来ました。今後

うさぎ組のお友だちは、ばんだ組のお友だちと一緒に片栗粉を使って感触遊びをしました。最初は粉だけをタライに入れてサラサラの感触を味わい、顔や腕につけて楽しんでいました。少しずつ水を入れてドロドロになっていく感触に戸惑い、保育士が触っているのを不思議そうに見つめていました。手に取りギョツと握ると固まり、力を緩めるとドロツツと溶けていく感じがおもしろく、ついつい保育士の方が何度も繰り返して遊ぶほどでした。子どもたちはその姿



一緒に遊ぶと楽しいね

子どもたちの発想や工夫している姿を十分に認め、友だちとの関わりを見守ったり、子どもたちが新たな遊びを見つけてられるような環境を用意していきたいと思えます。



カレーライスを作ったよ

ぞう組2年生がカレー作りに挑戦しました。毎回クッキングを楽しみにしている子どもたち。今回も張り切って積

を見て興味を持ってくれたようで、タライに手を伸ばして触ってみることにチャレンジしていました。

この遊びを通して、大人も子どもと一緒に楽しみながら遊ぶことが子どもとの興味関心を引き出すきっかけになることを改めて感じました。

極的に取り組んでいました。野菜を洗い、皮をむいたり、包丁で切ったり、カレー粉を入れてお鍋の中を混ぜたりと8人で協力して最後まで頑張って作っていました。役割を分担して友だち同士で協力してカレーを作る姿に子どもたちの成長を感じました。

出来上がった後はぞう組1年生にもおすそ分けをして、1年生のお友だちからも「おいしい〜!」とたくさん言ってもらえて、とても嬉しそうでした。みんなで作ったカレーはあつという間になくなり、とても美味しいものが出来ました。

作っている最中では、「お家でもカレーライスのお手伝いしたことあるよ!」「お母さんがいつもこうしてお鍋に入れてるよ!」などお家でしていることやお母さんがしている様子を披露してくれたり、お家でもお手伝いをしたり、お家の人がお料理している様子をよく見ているなど感心しました。



青山保育所

ドキドキ! 雨の日の園庭散歩



雨の多かった6月、きりん組のお友だちは小雨が降る中長靴をはき園庭にお散歩へ出かけました。いつもとは少し違った園庭の様子に子どもたちも大興奮! 鉄棒の下にできた水たまり、砂場の近くでは大きなミミズを見ついたりと発見がいっぱいでした! 「いたよー!」「みんなきてー!」の声に誘われて子どもたちも集まる姿がとっても可愛らしかったです。今度も季節の移り変わりの中で実際に触ったりと身の回りの環境に目を向ける機会を増やしていきたいです!

青山ランドと夏祭り

今年の夏祭りのテーマは「青山ランドへようこそ!」ということでした。いろいろなキャラクターが子どもたちをお出迎え。はなかつぱのスーパーボールすくいや妖怪ウォッチの的当て、キティちゃんのくじびきなどがありました。獲得した景品を嬉しそうに持つ子どもたちの姿があり、私たちも嬉しくなりました。そしてステージにはなんとアンパンマンたちが来てマジックやダンスを見せてくれました。登場の迫力に「こわい!」と身構



えてしまおう子や「あんばんま〜ん!」と手を振る子とその姿はさまざまでしたが、楽しんでいただけたのではと思っています。子どもたちの神輿や盆踊りも元氣いっぱい夏祭りのフィナーレを飾り、とても素晴らしかったです。子どもたちも楽しんで踊ったりする姿が見られました。

子どもたちも普段では降園している時間なのに保育園にいたり、夏ならではの行事に大満足の様子でした。また、保護者の方も交えての行事です。夏祭りを通してゆつくりお子さんと関わる時間を持っていたただけたのではないかと思います。また来年もお楽しみに!!

「エリヤは嵐の中を天に上って行った。」

列王記下2章11節

青山保育所 小久保次郎

預言者エリヤはギルガルを出て、ペテルに行きます。そしてエリコへ行き、ヨルダンに行きます。そのとき、火の戦車が火の馬に引かれて現れ、エリヤと同行者エリシャの間を分けます。そして、エリヤは嵐の中を天に上っていきました。劇的な場面であります。預言者エリヤを捜すために、エリコの預言者たちの僕五十人が、行きますが、見つけることができませんでした。エリヤは天に上っていったからです。この後、エリヤの霊がエリシャの上にとどまっているのをエリコの預言者仲間が、気づきました。この物語を読むと、信仰とは継承されることを教えられます。新約聖書でもイエスはペテロに天国の鍵を委ねています。継承されるためには、神への追従が必要で、どこまでも、どこまでも神様に従っていくことです。

現代は、様々なことに人々は身を委ね、自ら求める物やことに追従していきます。現代は恐ろしいほどのス

ピードで変化していきますので、現代人は、自らが求めるものに振り回されているのです。さて百年後、千年後、人間の取り巻く状況が、どうなっているのか、想像すらつきません。人間は宇宙に移住をしているかもしれません。しかし、どんなに時代が変わろうとも神と人間との関係は不変です。ただ人間は神に従うのみです。エリヤはエリヤに「わたしはあなたを離れません。」と三回も言います。師匠と同行していく弟子の姿があります。人間の悲劇は、あのエデンの園で神を裏切り、神と共に歩むことを止めたことに始まります。神から隠れ、神を第一としなくなつたことに由来します。聖書は人間と神との離反の歴史をも描いています。神への疑い、神への不信仰を赤裸々に描いています。そして、神から赦され、神へと再び人間が帰る喜びの結末を描いています。人間のもつ弱さ、限界を突破するのは神の力です。

野口保育所

蒸し暑く雨の多かった夏も終わり、朝も涼しくなってきました。吹く風には金木犀の香りも漂い…だんだん秋が深まってきたように感じる今日この頃です。考えると今年も残す所2ヶ月！時が経つのは早いものです。毎日を大切に子どもたちと過ごしたいなと思っています。

夏から秋にかけての子どもたちの様子を少しずつですが、ご紹介していきます。

プール遊び



毎年子どもたちが楽しみにしているプール遊び。保育士たちが力を合わせて園庭にプールを出すと子どもたちが目を輝かせて、「プールだ〜！やったー！」と大喜びします。

今年も雨が多く、毎日お天気とにらめっこしながらのプール遊びとなりましたが、晴れた日には夏ならではのプール遊びを満喫していたようでした。

夏祭り



8月8日(土)に「夏祭り」が行われました。今年はお天気に恵まれ園庭を使って行うことができました。今年はお天気に恵まれ園庭を使って行うことができました。今年はお天気に恵まれ園庭を使って行うことができました。

た。ゲームや景品も毎年手作り、園児や保護者や地域の方にも喜ばれました。職員用の催し物で懐かしいヒゲダンスや廃材を用いた楽器演奏も見て楽しい時間を過ごすことが出来ました。

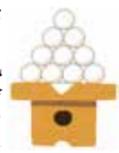


おじいちゃん・おばあちゃん遊ぼう会

9月12日には、敬老の日を兼ねて子どもたちのおじいちゃんおばあちゃんを保育園にご招待しました。

お楽しみ会では、おじいちゃんやおばあちゃんに歌のプレゼントをしたり、一緒に「手巻き寿司」を作って給食の時に一緒に食べました。おじいちゃんやおばあちゃんが孫の手を優しく持つて一緒に

お月見会



9月25日に全クラスでお月見会をしました。担当の職員と年中・年長組の9月生まれの園児たちが「お月見会の由来」の劇をしてくれました。全クラス一人一人が大きなお月見様の前に「スキ」や「いも」や「団子」をお供えする時間もあり、小さいクラスの子どもたちも喜んでる姿がありました。

今年はお月見会で作ったこれからの、このような機会を作っていきたくという気持ちでいっぱいになりました。



食育

クッキングや夏野菜の収穫、これからは芋ほりなどたくさんのお食育を子どもたちと行えるように、食育チームで計画しています。7月8月には夏野菜(トマト・豆・きゅうり)の収穫やすいか割り、9月にはおはぎ作りやソーメン流し、10月にはサンマ祭り、芋ほりバス遠足など…子どもたちが食に興味を持って楽しく美味しく食事ができるようにしていきたいです。



自立支援とアフターケア体制

職業指導員の仕事

職業指導員 藤内 貴章

施設には日々直接養育に携わるスタッフのほかに、里親支援相談員に続いて、子どもの自立に向けたプログラムを専門に担当する職業指導員が配置されました。施設にいる子どもたちに対して生活の自立、経済的な自立のための働くスキルを身に付けること。加えて、社会に巣立った卒業生の日常生活や結婚生



活、リスク管理も含めた生活上の問題、働く上での問題、友だち関係、健康管理などごく普通の家庭での成人した子どもが直面する多岐にわたる問題に対して親のかわりに助言・支援・指導するものです。実際、子どもたちが施設から巣立った後に、社会で生活しながら働き続けることは容易なことではありません。人間関係の悩みや金銭トラブル、住居や身元保証相談、病気や健康相談など抱えている課題は多岐にわたります。そのような状況の中で、施設として何が出来るのかを、日々試行錯誤しながらアフターケアに取り組んでいます。

着任して半年間が過ぎた実感するのは「卒業した

子どもたちが、自ら困り感を発信することは非常に難しい」ということです。

そんな中で卒業生と関わる際に私自身が大切にしていることがあります。それは、①この人になら話しても大丈夫」という関係作り、②卒業生との何気ないやり取りの中から異変を感じ取る【気づきのセンス】を磨いていくこと、2点です。そのためにも、まず、普段から卒業生と繋がること、だいたいになってきます。

掲載している写真は、その一環として8月8日に卒業生と支援者の方々に招待して開催した「グレー・スホームの集い」パーベキューの夕べの様子です。パーベキューと花火大会を通じて卒業生と在園生、職員や支援者との交流を深めました。参加者から「懐かしい面々と逢えて楽しかった。また企画して欲しい」との感想や、残念ながら



今回は不参加だった卒業生からも「次回はぜひ参加したい」との連絡があったりと予想以上の反響を大変嬉しく思いました。栄光園が実家(ふるさと)としての役割を果たせるよう、子どもたちにとって、その存在が拠り所となつていけるよう今後も取り組みを継続していきたいと思えます。

専門職の職員配置

児童養護施設 栄光園 (計30名)

- 施設長1、総主任1、事務主任1、事務員1、里親支援専門相談員1、心理士1、職業指導員1、児童指導員8、保育士11、栄養士1、調理員3、嘱託医1、

乳児院 栄光園 (計32名)

- 施設長1、総主任1、事務主任1、事務員1、保育主任1、里親支援専門相談員1、心理士1、児童指導員2、保育士11、看護師3、栄養士2、調理員等6、嘱託医1、

社会福祉法人 栄光園 2015年度 7/10月職員の動静

採用

- 9月1日付
 - 乳児院 木下 菜子 (調理員等)
- 10月1日付
 - 乳児院 前原 彩 (保育士)

退職

- 8月31日付
 - 児童養護施設 荒金 雄紀 (児童指導員)
 - 山川 二美世 (児童指導員)
 - 石脇 美沙子 (調理員等)
- 9月24日付
 - 乳児院 牧 卓史 (保育士)

栄光園のご支援者

ご支援ありがとうございます。

栄光園は多くの皆様の継続した温かい思いによって支えられてきたことを心から感謝いたしております。皆様のこのような思いは、子どもたちの成長に、また、働く私たちの励みに大変大きな力となっております。ことをいつも嬉しく思います。

児童養護施設の子どもの卒園後の進学等を重点的に支援する目的で『自立進学資金』の枠を設けております。皆様のご協力ありがとうございます。

この秋も皆様の上に神様の豊かな祝福がありますようお祈りいたしております。

【2015年7月1日より2015年9月30日まで】

2015年 賛助金

- 安部 静子様 大分市
- 井口 順子様 別府市
- 伊勢 方信様 別府市
- 川村 隼秋様 熊本市
- 國方 智之様 別府市
- 旬コーワ精起様 東京都
- 高安 淳二様 別府市
- 谷本よう子様 宇佐市
- 津田 眞五様 大分市
- 野町眞理子様 高松市
- 長谷川士郎様 別府市
- 福田美代子様 大分市
- 帆足 隆哉様 玖珠郡
- 増田 百恵様 日田市
- 三浦喜美子様 中津市
- 匿名様 別府市
- 山口産業(株)様 別府市
- 吉井 建之様 大綱白里市
- 匿名様 別府市

2015年 一般寄付

別府市

（勤）青年交流振興協会様

匿名様 別府市

匿名様 別府市

濱田セツ子様 別府市

久恒正典様 大分市

2015年 自立進学資金

阿部 薫様 日出町

安東秀典様 大分市

匿名様 別府市

2015年 改築寄付

別府不老町教会様 別府市

衣類等 愛育学園はばたき様

事務用品・バーベキュー用品代 安東秀典様

衣類・絵本等 アン動物病院様

食品等 石崎めぐみ様

お菓子多量 ヴィーナスギャラリー別府店様

お米 釜口成男様

電子ドラム・ギター等 大分臨海ロータリークラブ様

花火等 加藤敏夫・千佳様

お菓子 辛島陽子様

納豆 九州納豆組合川上食品様

アイスクリーム多量 九州アイスクリーム協会様

衣類 河野国弘・美智代様

パン多量 ココロト様

お菓子 後藤雄一様

お菓子 杉町圭蔵・千穂子様

椅子・玩具等 (株)大銀経済経営研究所様

書籍 ティムデイツク様

食品等 匿名様

別府市

別府市

別府市

大分市

別府市

日出町

大分市

別府市

衣類・ぬいぐるみ等

音楽CD 日本レコード協会様

敷物・食器等 野口克子様

石鹸・書籍等 波多野郁子様

ジュース多量 濱田セツ子様

書籍 藤田奈保子様

花の苗多量 別府ロータリークラブ様

食品等 松山俊之様

お菓子 萬松寺久恒正典様

バーベキュー用品 西日本畜産(株) 渡邊都様

匿名様 安東秀典様

匿名様

西野光隆様

西村由紀様

野口克子様

波多野郁子様

濱田セツ子様

藤田奈保子様

松山俊之様

萬松寺久恒正典様

西日本畜産(株) 渡邊都様

安東秀典様

匿名様



苦情等相談窓口

*法人および各施設での苦情等は下記の連絡先へご相談ください。
tel.0977-23-2827
fax.0977-23-7520
mail eikoen@live.jp

賛助会員募集

年会費、一口千円、但し、何口でも、分割も可。
ご連絡いただければ職員が参上します。栄光園賛助会事務所は、別府市南荘園町3組です。
賛助会員の皆様には、栄光園の広報誌『栄光園だより』を送付させていただきます。

2015年 招待・奉仕

- 小・中学習指導 安東秀典・井上せつ子様
- 野球観戦 アミューズメント協会様
- プロレス観戦 江藤行夫様
- あかねこJAZZ招待 大分臨海ロータリークラブ様
- 児童のヘアークット Kヘアー様

編集後記

子どもの養育には、子どもたちの希望も含め、多くのスタッフの知恵の結集が生かされます。この夏は、沢山のお肉の寄付で豪華になった卒園生や支援者をお招きしてのグレースホームの夕涼み会、少年の船、ホーム毎のキャンプ、イングリッシュキャンプ、ユニバーサルスタジオジャパンへの船旅、多くの企画が実現した濃い夏でした。子どもにとっては自分たちのために多くの人たちが心血を注ぎ努力しているという実感が自己肯定感を育むように思えるこの頃です。感謝です。(敏)

Merry Christmas
クリスマス祝会

栄光園を巣立った卒園生、栄光園を支援して下さる皆様、そして生活している子どもたちこそって、**12月19日(土)14時より**「クリスマス祝会」を児童養護施設2階ホールにて開催いたします。イエス様のご降誕を一緒にお祝いいたしましょう。もちろん、参加費は無料で、お志等は固く辞退させていただきます。